

2025年 No.171

箱根ビジターセンター

足下の森に目をむけて

箱根を訪れる目的はそれぞれだと思います。温泉でしょうか。芦ノ湖を眺めるのも良いですね。神社に参拝するのも素敵です。

これからですと、紅葉が見頃です。一面真っ赤ではなく、黄色や黄緑、濃淡のある山々の色は眺めているだけで癒されます。

四季折々変化する箱根の景色については自然公園だよりでこれまで多くの方々が皆様にお伝えしてきました。

そこで、私は少し違った景色を紹介させて頂きたいと思います。それは、足下の小さな森“コケ”です。一見するとただの“モサモサ”、人によっては“ジメジメ”。

どんな印象がありますでしょうか。ルーペ（おすすめは40倍）を片手に見ると、透き通った緑色の葉、丸かったり、ギザギザしていたり、コケにも多様な形、種類があることが分かります。そうしたことに気付けると、なんとなく見ていた足下の緑が一つの森のように見えてきます。

箱根は神奈川県内でも特に降水量が多く、変化に富んだコケ達に出会うことができます。是非立ち止まって足下の景色にも目をむけてみてはいかがでしょうか。

(執筆：及川)



ルーペで見たチョウチンゴケの仲間

自然公園へでかけよう



公式SNSは二次元コードから！

県立秦野ビジターセンター
Hadano Visitor Center
〒259-1304 秦野市堀山下1513
Tel 0463-87-9300
<https://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawavc/>



X(エックス)



X(エックス)

県立西丹沢ビジターセンター
(旧西丹沢自然教室)
Nishi-Tanzawa Visitor Center
〒258-0201 足柄上郡山北町中川867
Tel 0465-78-3940
<https://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawavc/>

環境省箱根ビジターセンター
Hakone Visitor Center
〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根164
Tel 0460-84-9981
<https://hakonevc.sunnyday.jp/>



Facebook

秦野ビジターセンター

神奈川県の子キノワグマ

最近、全国ニュースになる子キノワグマ（以下クマ）ですが、県内では、丹沢を中心に生息しています。推定約40頭、いつ絶滅してもおかしくない数です。数が少ないことに加え、基本的にはクマも人間のことを怖いと感じているので、なるべく出くわさないよう行動しているため、滅多に出会う機会はありません。

それでも人目につくような場所にクマが出てきてしまうことはあり、以下の理由が考えられます。

1. 山の木の実が不作で、エサを求めて広範囲を動き出沒。
2. 里山を人があまり利用しなくなりヤブ化して人の生活エリア近くで活動し易くなった。
3. 残飯や放棄果樹などで人の食べ物の味を覚えてしまい、執着するようになった。

人との距離が近くなると、出会う確率が増し、不幸な事故へと繋がってしまうかもしれません。クマのことをよく知り、人里にクマを引き寄せない工夫をすることが大切です。ビジターセンターの利用や、県のホームページ「子キノワグマ情報」も参考にしてください。

（執筆：長澤）



子キノワグマ

西丹沢ビジターセンター

山岳遭難事故について

西丹沢では今年、5月の山開きから山岳遭難事故が多発しました。

秋の紅葉シーズンを控えて、無事に下山して家に帰ることを意識して登山をしましょう。全国の山岳遭難事故件数は、2024年では2,946件で2023年を下回りましたが、高い水準です。

神奈川県の事故発生件数は183件で東京都と並んで3番目に多いです。道迷い・滑落・転倒が主な原因です。道迷いに関しては、スマートフォンの登山アプリを使うことも大事です。

充電が切れたら使えなくなるのでモバイルバッテリーを準備しておくことと、バックアップで紙地図とコンパスを持参して使い方もマスターしておきましょう。ただし登山アプリを使う際、画面を注視しすぎて登山道を外れる例もあるので気を付けてください。

滑落・転倒については、普段からランニングやウォーキング、なるべく階段を使うなど意識して体力の維持を心がけてください。

最後に、単独での登山はリスクが高いです。

万一のことが起こった時、発見が遅れることが多いです。登山計画を身近な人と共有して通報してもらうなど対策をとっておきましょう。無事に帰宅することが、登山では一番大切なことなので、しっかり準備して秋山登山を楽しみましょう。

（執筆：管）



要救助者を搬送する訓練の様子